

黒大豆・黒大豆枝豆産地の活性化

要約

黒大豆は宇陀市の特産品として成長してきたが、生産者の高齢化、連作障害等の諸問題を抱えており、これらの対策として以下の取り組みを実施した。新規作付者等の育成に関しては、黒大豆・黒大豆枝豆の栽培講習会を年5回開催し、講義と実習を行った。黒大豆枝豆の作期拡大を図るために、大和野菜研究センターの研究成果を展示圃として設置し、普及啓発に取り組んだ。連作障害であるダイズシストセンチュウ被害に対しては、緑豆を用いた防除の技術実証を行った。

現状(背景)と課題

(現状)

・新規作付者	毎年5名
・黒大豆、10月どり枝豆	12.8ha
・早生黒大豆枝豆	1.3ha
・9月どり黒大豆枝豆	0.1ha
・センチュウ防除実証	0.2ha

目標

・新規作付者	5名
・黒大豆、10月どり枝豆	13.0ha
・早生黒大豆枝豆	2.5ha
・9月どり黒大豆枝豆	0.3ha
・センチュウ防除実証	0.3ha



活動内容

対象：JA大豆・小豆生産部会、JA高原野菜生産部会

- ・新規作付け者：新規作付者を対象にした栽培講習会の開催、巡回指導による基本技術の徹底
鳥獣害対策に関する情報提供
- ・黒大豆、10月どり枝豆：生産部会への運営支援
- ・早生黒大豆枝豆：各生産部会の講習会における情報提供、巡回指導による基本技術の徹底
- ・9月どり黒大豆枝豆：出荷規格等の検討
- ・センチュウ防除実証圃：緑豆を用いた防除実証圃の設置。

成果

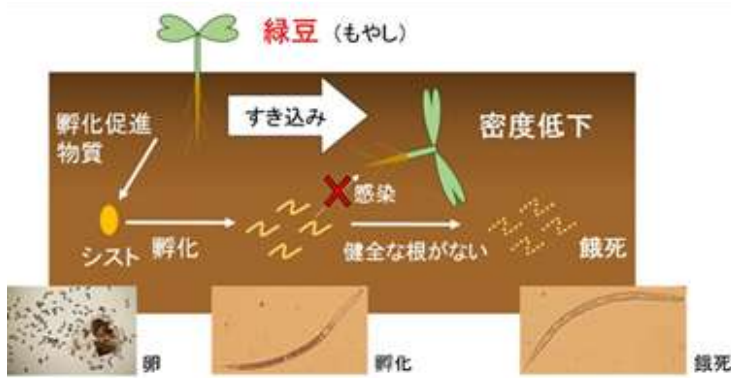
・新規作付け者	5名	・黒大豆、10月どり枝豆	13ha
・早生黒大豆枝豆	1.4ha	・9月どり黒大豆枝豆	0.15ha
・センチュウ防除実証圃	0.3ha		



新規作付者を対象とした栽培講習会



巡回指導



緑豆を用いたダイズシストセンチュウ防除



作期拡大した枝豆の出荷規格の検討

普及活動のポイント

新規作付者等を対象にした栽培講習会について、計5回実施したが、座学だけでなく実習も行った。早生枝豆の作期拡大と面積拡大については、大和野菜研究センターで開発された技術の展示実証を行うとともに、作付け未実施の生産者に対して枝豆の収支試算例を情報提供することで、普及啓発を行った。ダイズシストセンチュウ防除対策では、病害虫防除所、JA及び生産者と連携することで、緑豆を用いた防除体系の確立に取り組んだ。

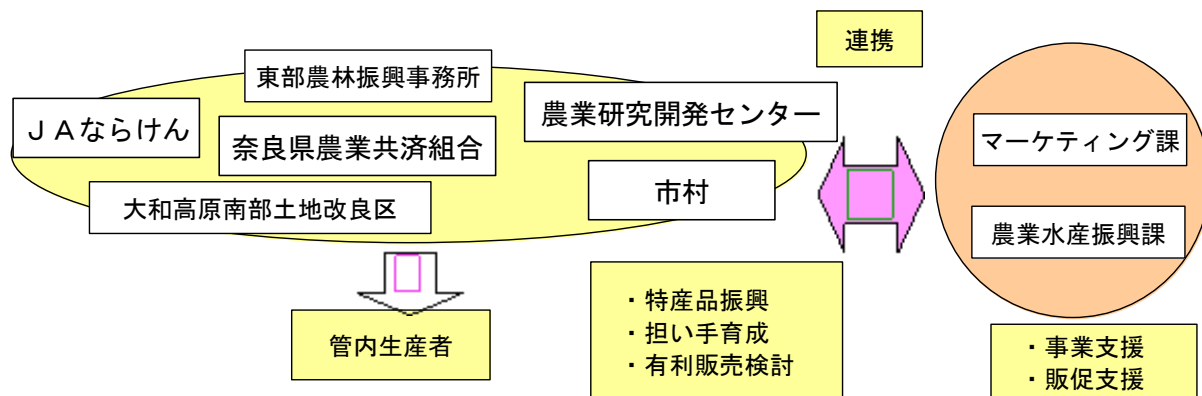
対象者からのコメント

- ・この数年の気象条件等により生産性もやや悪くなっている。連作障害対策も含めて今後ご指導いただきたい (生産者)。

これからの活動ビジョン

- ① 新規作付者：新規作付者や未経験者を対象とした栽培講習会の継続
- ② 黒大豆・10月どり枝豆の面積拡大：生産部会に対する支援の継続
- ③ 早生黒大豆枝豆：収支試算例に関する情報提供や栽培指針の改訂による普及啓発
- ④ 9月どり黒大豆枝豆：収支試算例に関する情報提供や栽培指針の改訂による普及啓発
- ⑤ センチュウ防除実証：薬剤を併用した防除体系の実証と確立

活動体制



東部農林振興事務所農業普及課
 担当：担い手、農地マネジメント係 竹中、櫻井
 農産物ブランド推進係 安川